

BP材料代の検証進める

原価割らない請求額に

日車協連

日本自動車車体整備協同組合連合会(日車協連、小倉龍一会長)が、板金塗装(BP)の材料代の検証を進めている。1台当たりのBP全工程で使用した材料(副資材を含む)の量と原価を計算し、原価を下回らない請求金額の算出方法などを共有する狙い。日車協連内の調査で、塗料以外の材料代を未請求または原価に対して不足した金額で請求する組合員が多いことが分かっている。足元でさまざまな材料が値上がりする中、組合員が実際に合った金額を請求できる環境を整えたいと考えた。

10%台後半から20%台前半となっている。ただ、この算出方法は、請求金額がレイバーレトや材料費の割合で変動するほか、原価に基づく請求金額と乖離(かいり)するケースもある。

従来の算出方法では不足すると指摘も

一方で、板金の材料代では「マニュアルでは指数に材料代は含まないとするものの、請求していない(できていない)事業者が多い」「(日車協連)という。こうした状況から、日車協連は従来の請求額



材料の実物を展示し視覚的に訴えた(埼玉協の講習)



埼玉協では塗装作業の講習も併催した

の算出方法では、実際にBP作業で全体に要した原価に対して不足すると指摘する。適切な算出方法の確立に向

け、埼玉県自動車車体整備協同組合(埼玉協、泰菜秀一理事長)が9月中旬に実施した講習会でも、検証を行った。当日は首都圏の車体整備事業者の約60人が参加。ドアパネルの8平方メートル(1平方メートルは1平方分の100分の1)の損傷を題材に、材料の使用量と原価を調べる実証実験を実施した。板金と塗装それぞれに使用した材料の原価に、利益を加えた請求金額を計算した。

講習は2部構成で、1部では実車とともに100品目近い板金と塗装の材料をリストアップ(未使用品も含む)して展示。実際の工程に沿って、材料の使用量に基づいて原価を計算した。2部では1部で計算した原価に基づいた請求金額の算出方法を解説した。講習では「商売で、原価で品物を売ることはない」「(埼玉協)ことを前提に、参加者が利益を加味した請求金額の算出に取り組んだ。従来の計算方法との請求額の違いを比較するだけでなく、原価に基づいた請求金額から逆算した材料費割合を算出するなどして理解を深めた。

各地で講習会を開催していく考え

同様の講習会は2023年度から一部の単組で実施しており、根拠に基づいた請求につながるという。今回の埼玉協の講習会で、首都圏の組合員を対象にしたのは、こうしたノウハウをそれぞれの単組に広げていく狙いもある。日車協連は今後も、さまざまな単組で、こうした講習会を開催していく考えだ。

日車協連の調査研究委員長も務める泰菜理事長は参加者に、「今後得ることができ

収益について、出口戦略もすっかりと検討してほしい」と呼び掛ける。車体整備業界は、人材不足や次世代車に対応する設備投資など課題が多い。適切な対価を得ることで、新たな人材の採用や賃上げ、休日の拡大などの従業員への還元、コンプライアンス(法令順守)の確保、設備投資などに活用し、組合事業者の成長につながる基盤づくりに役立てる。(村上 貴規)

TPM-5 Diagnostic Tool
All In One

国産車、国産トラック、輸入車対応

国産車断トツのエーミング対応!!

- VIN(車体番号)読み取りによる自動診断ソフト起動
- 特殊機能からの簡易バッテリーチェック搭載
- エーミングやDPF作業手順を一連の流れで行える特殊機能

スクリーンショット

TOOL PLANET TECHNOLOGY